

# 第1章 野田市の現況と特性

この章では、野田市の位置的な条件や現在に至るまでの発展の経緯とともに、土地利用、交通体系、産業などの現況や特性を整理しています。

1-1 まちづくりの経緯

1-2 現況と特性





## 2) 発展の経緯

旧野田市は、水とみどり豊かな自然環境の中で、江戸時代から醤油醸造の地として発展し、産業、文化の面においても周辺地域の中心地として繁栄してきました。しかし、近代以降の鉄道・自動車の発達とともに交通体系は大きく変貌し、東京に比較的近距离に位置しながら、周囲を河川に囲まれた地理的条件に阻まれ、都心部に直結した鉄道や道路に恵まれず、首都近郊都市でありながら都市化の進展が緩やかで、落ち着いた街並みを形成してきました。

旧関宿町は、江戸時代に整備された利根川及び江戸川の水上交通により栄え、関宿藩には幕府の水関所が置かれるなどにぎわいを見せましたが、時代の推移により水運の要所としての役割を終えました。同町は、近代将棋の父と称される十三世名人関根金次郎や、戦後の日本将棋連盟を再興した渡辺東一など、将棋界を担った棋士を輩出しました。また、内閣総理大臣を務め、終戦に導いた鈴木貫太郎が居を移すと、同氏が奨励した酪農が全盛となり、豊かな自然とともに農業・畜産を中心とした第一次産業を基に発展してきました。

平成15年6月の合併後は、いちいのホールの整備、コミュニティバス（まめバス）の運行、鉄道駅の東口整備、生活関連道路の整備等、新市の一体性の醸成及び均衡ある発展に資するまちづくりが行われています。

今後のまちづくりにおいては、これまでの発展の方向性を継承しつつ、様々な分野において更なる発展を遂げるようなまちづくりを推進することが求められます。



■ 野田市役所



■ いちいのホール（旧関宿町役場）

## 1-2 現況と特性

### 1) 人口

野田市の人口は、平成27年（2015年）時点で約15万4千人（常住人口（\*5）ベース）であり、平成28年度からスタートした総合計画においては、平成42年（2030年）における将来人口は約15万2千人と想定されています。

### 2) 土地利用

野田市の土地利用は、野田地域と関宿地域に大別されています。

野田地域は、国道16号以西は主に市街地、以東は農地、ゴルフ場を中心とした土地利用がなされています。

市街地は、その土地利用上の特性から北部、中央及び南部の3地区に区分することができ、北部地区と南部地区は、土地区画整理事業（\*6）などにより、計画的に開発・整備された住宅地が広がっています。中央地区は、古くからの醤油工場の集積を中心に工業地、商業地及び住宅地が形成されており、経済、文化、商業、生活の中心的な地区となっています。

また、国道16号以東に関しては川間、東部及び福田の3地区に区分することができ、台地部分は主に、畑地及びゴルフ場として利用されており、低地部分は水田として利用されています。

関宿地域については、関宿北部、関宿中部及び関宿南部の3地区に区分することができ、関宿北部地区は、城跡や史跡等の歴史的遺産による文化的な潤いのある市街地が形成されており、関宿中部地区は、基盤整備が遅れているものの、土地区画整理事業による計画的な市街化が図られ、さらに、関宿はやま工業団地が整備され流通施設等が集積しています。関宿南部地区は、優良な農地と共存する形で集落が形成されています。

#### (1) 住宅系土地利用

住宅系土地利用としては、北部地区に川間駅南側を中心としたみどり豊かなたすまいの住宅地が形成されているほか、南部地区におけるみずき一丁目から四丁目などは、景観に配慮した良好な住宅地が形成されています。

また、中央地区においては、古くから市街地が形成されており、密集した市街地の中で、中高層の建築物が点在しています。さらに、江戸川や座生川沿いには、景観に配慮した良好な住宅地が形成されつつあります。

関宿北部地区及び関宿中部地区においては、土地区画整理事業による面整備が行われており、計画的な市街地整備が進められています。



■みずき地区



■桜の里地区

## (2) 商業系土地利用

野田市の商業地は、東武野田線の野田市駅・愛宕駅周辺や中野台地区及びその周辺が中心商業地として位置付けられています。

また、一般商業地は、中心商業地に連担して形成されているほか、川間駅周辺地区、梅郷駅周辺地区及び土地区画整理事業で整備された地区などに形成されています。

その他、幹線道路（\*7）沿いに郊外型店舗が立地しており、多様な商業施設による沿道景観が形成されつつあります。特に、中心商業地において、郊外部での大型店舗の立地や店舗の老朽化、後継者不足などにより空き店舗が増加しています。

関宿地域の商業地は、主要地方道沿道に商業の集積が若干見られますが、独自の商圈の形成には至っていません。



■中心商業地



■みずき地区の商業地

### (3) 工業系土地利用

野田市駅周辺などの市の中心部では、野田市の産業活動に大きな役割を果たしている醤油醸造業が営まれています。国道16号沿いには中里工業団地、南部工業団地、野田工業団地が立地しており、関宿地域においては、主要地方道結城野田線沿いに関宿はやま工業団地、それに隣接して関宿工業団地が立地しています。また、泉地区には流通業務施設等の立地が進んでいます。

その他、七光台地区に北部工業団地が立地していますが、七光台駅に近接していることから、工場と住宅との混在による土地利用上の問題が見られます。このような住工混在の土地利用を解消するために、既存工業地への工場移転を促進します。



■ 南部工業団地



■ 関宿はやま工業団地

### 3) 交通体系

公共交通については、都心に直結する鉄道がなく、東武野田線が単線であることから、通勤、通学などにおける交通の利便性の向上が求められています。今後は、公共交通の利便性を高めるため、東京直結鉄道（地下鉄8号線）の整備、東武野田線連続立体交差事業（\*8）及びそれを契機として複線化を促進します。

道路網については、広域的な道路として東西方向に主要地方道つくば野田線、越谷野田線及び境杉戸線、一般県道岩井関宿野田線、南北方向には、国道16号、主要地方道結城野田線、松戸野田線、我孫子関宿線及び市道山崎野田線が機能し、市街地の主要な交通動線としての役割を果たしています。しかし、河川に囲まれている地形上の特性から、各河川を渡る幹線道路の橋付近では、日常的な渋滞が見られるとともに、市街地内においても東武野田線の踏切による渋滞が見られます。



■ 野田橋付近の交通渋滞



■ 梅郷駅付近の交通渋滞

#### 4) 産業

##### (1) 商業

近年、郊外型・沿道型の大型店の立地が進み、市街地内の商業地においては、店舗の老朽化や後継者問題、駐車場不足、交通アクセス問題、空き店舗の増加など、商業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。

このような中で、平成18年8月に施行された「中心市街地の活性化に関する法律」の主旨とその基本方針に沿って、多様な都市機能（\*9）が集積した中心市街地の形成が計画されています。

##### (2) 工業

野田市の工業は、市の中心部に長い歴史と伝統を有する醤油醸造業や関連産業により発展し、現在も野田市駅周辺などにおいて、多くの工場が稼働している状況です。

また、国道16号が市の中心を通り、交通の利便性が高いことから、金属・機械を中心とした6か所の工業団地が立地し、市の活力を支えています。



■ 醤油工場



■ 中里工業団地

### (3) 農業

農地は、その大部分が関宿地域の河川沿いと野田地域の国道16号の東側や南部地区の今上周辺に分布しており、台地部分では、ほうれん草や枝豆、キャベツなどの野菜類の作付けが行われ、低地部では、水稻を中心とした作付けにより農業が営まれています。しかし、近年の高齢化に伴う後継者不足などにより、耕作放棄地が拡大しつつあり、今後の農業の展開が懸念されています。

江川地区においては、自然との調和に配慮した農業経営を行う農業生産法人が設立され、用水路のしゅんせつ（\*10）や水田の草刈りなどの復田作業が行われ、自然環境保護対策基本計画に基づいた自然と共生する地域づくりが推進されています。



■ 小山地区の水田



■ 江川地区の水田

### 5) 自然・歴史・文化

野田市を取り囲む大きな自然環境の要素として、利根川、江戸川及び利根運河の三つの河川や、中央の杜、野田市総合公園、野田市関宿総合公園、野田市スポーツ公園などの公園・緑地とあわせて、豊かな自然とのふれあいの場となっています。

また、河川周辺の低地部においては、優良な農地が広がっており、屋敷林に囲まれた農家など一体となった良好な田園風景を見ることが出来ます。その他、国道16号沿いに広がる平地林や、市街地の内部や周辺部に残された谷地群及び斜面林は生物多様性の宝庫であり、野田市の特徴的な自然資源として挙げられます。また、多くの神社・仏閣の中の樹林等は本区域を特徴付けるみどりとしてとらえることができます。

野田市の歴史としては、古くから醤油醸造の地として発展してきた中心市街地から野田市駅にかけての醤油蔵やそれを取り囲む板塀、レンガ塀のほか、醤油醸造の中核を担ってきた醸造家の住宅など、古き良き時代をしのばせる建造物が多数存在しています。また、代表的な神社仏閣として、

愛宕駅付近の愛宕神社は、野田一帯の総鎮守として位置付けられていたもので、現在は市街地内においてみどりが少なくなりつつある中で、潤いある空間を形成しています。

野田市（旧関宿町）にあった城としては、室町時代に築かれたとされている関宿城があり、江戸時代には関宿藩が設置され、江戸川をまたがるように縄張りを持っていました。関宿城の城跡近くには、県立関宿城博物館があり、旧関宿町や関宿城についての資料が揃っている博物館で、シンボリックな天守閣は平成7年に古い記録に基づいて再現されたものです。また、主な著名人としては、近代将棋の父と称される十三世名人関根金次郎や、戦後の日本将棋連盟を再興した渡辺東一など、将棋界を担った棋士を輩出しました。さらに、内閣総理大臣を務め、終戦に導いた鈴木貫太郎の遺品の多くを展示した鈴木貫太郎記念館が有名です。

野田市では、「野田三ヶ町夏祭りのつく舞」、「清水八幡神社のばっばか獅子舞」など、伝統の技が冴える民俗芸能が貴重な財産となっています。また、「清水公園のさくらまつり・つつじまつり」、「関宿城さくらまつり」、「野田みこしパレード」、「野田夏まつり躍り七夕」、「関宿まつり」、「野田市産業祭」などのおまつりや各種イベントも多く開催されています。



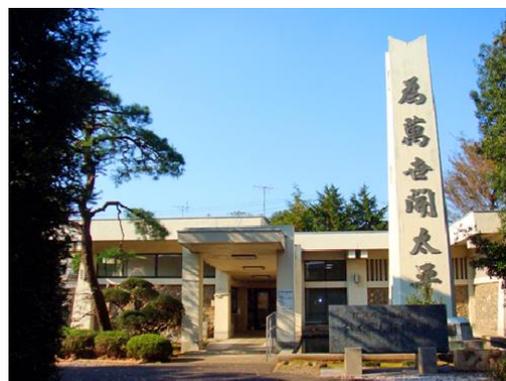
■ 江戸川



■ 関宿城博物館



■ 野田みこしパレード



■ 鈴木貫太郎記念館

市役所屋上より南西方向



市役所屋上より南東方向



市役所屋上より北西方向



市役所屋上より北東方向





## 第2章 まちづくりの目標

この章では、今後野田市が目指していく将来像や基本目標とともに、将来の野田市の骨格を形成するゾーン、軸、拠点の三つの柱を基に、将来の都市構造について整理しています。

2-1 将来都市像と基本目標

2-2 将来都市構造



## 第2章 まちづくりの目標

### 2-1

#### 将来都市像と基本目標

都市の発展の経緯や社会動向などを踏まえた今後の野田市のまちづくりについては、これまでの発展の方向性を継承し、望ましい将来の姿を構築していく必要があります。近年における人口減少・少子高齢社会の到来に対応し、高齢者も含めた多くの人にとって暮らしやすく、多様な都市機能が集積したコンパクト（※11）なまちづくりを目指し、都市間競争に打ち勝つ利便性、住みやすさ、生活環境の一層の向上を図り、それらの成果として若い世代が集い、バランスのよい世代構成を実現することで、今までよりも更に、より多くの市民の力をまち全体の活力の創出と向上につなげていくことが重要となっています。

今後の野田市のまちづくりにおいては、計画されている東京直結鉄道（地下鉄8号線）の整備による利便性の向上をいかした都市機能の充実、地域の良き資源である自然環境の保全・活用、都市基盤整備の推進による住環境の向上はもとより、近年進展が著しい情報化社会への対応による活力ある地域社会づくりや、ノーマライゼーション（※12）社会の構築など、様々な分野において更なる発展を目指したまちづくりを推進していくことが求められます。その過程において、様々な市民の参加や市民と行政との連携が大切となり、さらに、魅力あるまちの実現に向けて市民自らの努力も重要となっています。新しいマスタープランの策定後においても引き続き、市民と行政との協働作業により、継続的かつ計画的なまちづくりを進めていくこととなり、マスタープランに掲げる将来都市像や基本的な目標については、長期にわたって市民と行政の共通したまちづくり理念となるとともに、まちづくりの主役となる市民にとって分かりやすいものである必要があります。

そこで、本マスタープランにおける将来都市像及び基本目標は、総合計画に掲げる将来都市像及び基本目標と同様のものとし、以下のとおり設定します。

#### ●将来都市像

～人のつながりがまちを変える～  
みんなでつくる 学びと笑顔あふれる コウノトリも住めるまち

#### ●基本目標

- ① 自然環境と調和するうるおいのある都市
- ② 生き生きと健やかに暮らせる都市
- ③ 豊かな心と個性を育む都市
- ④ 安全で利便性の高い快適な都市
- ⑤ 市民がふれあい協働する都市
- ⑥ 活力とにぎわいに満ちた都市

## 2-2

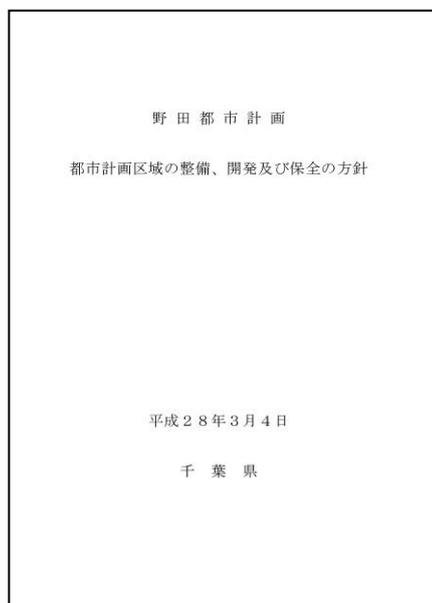
### 将来都市構造

#### 1) 将来都市構造構築の基本的考え方

野田市都市計画マスタープランにおける将来都市構造は、県が定める「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」や「野田市総合計画」などの上位計画において既に示されている、都市の骨格となる道路や土地利用の方向を踏まえて、より具体的に将来の望ましい都市の姿を明らかにするものです。

したがって、将来都市構造の構築に当たっては、「野田市総合計画」で示されている都市構造・土地利用の方向を、都市計画の視点から更に深く掘り下げていく必要があります。

このため、新総合計画策定過程の中で頂いた市民と総合計画審議会委員の意見を尊重し、将来都市構造を構築するための課題を抽出し、この課題に基づいて、より具体的な将来都市構造を描いていきます。



都市計画区域の整備、開発及び  
保全の方針



野田市総合計画

### 総合計画における将来都市構造・土地利用イメージ図



凡 例

	市街地ゾーン		幹線道路		サービス核
	農業振興ゾーン		外郭環状道路		緑地・レクリエーション拠点
	緑地・レクリエーションゾーン		鉄道		河川

## 2) 将来都市構造構築のための課題

当初のマスタープラン策定時における市民参加により得られた意見を同類の内容ごとにまとめ、そこから導き出される将来都市構造構築のための課題を整理します。

### 市民意見から見たまちづくりに望まれていること

自然と調和したメリハリのある土地利用が望まれています。

市内外の移動に便利な交通体系と、歩行者にやさしい道路が求められています。

豊かな自然に気軽に親しめるまちづくりが望まれています。

自然環境を保全・活用する、環境にやさしいまちが望まれています。

自然に包まれた、のどかで潤いある住環境づくりが望まれています。

水とみどりの潤いある景観とにぎわいが調和したまちづくりが求められています。

やさしい心にふれあうことができる、誰にでもやさしいまちづくりが必要です。

安心して暮らすことができる安全なまちづくりが望まれています。

豊かな自然、歴史、文化を求めて集まる人々の出会いの創出が必要です。

趣と味わい、古きをたずね先人に学ぶことができるまちが望まれています。

自然の中でスポーツ・レクリエーションを楽しめるまちが求められています。

活発で、にぎやかな産業を生み出す企業などの育成が求められています。

未来の野田市を支える若者が育つ環境整備が望まれています。

市民と行政の協働作業によるまちづくりが求められています。

いきいきとした市民生活を送れる公共施設などの充実が望まれています。

### 将来都市構造構築のための課題

#### 自然環境と調和した土地利用

多様な自然環境と密接な都市空間において、これらの自然と調和したコンパクトな市街地を形成し、にぎわいのある商業、落ち着いた住宅地、活発で周辺と調和した産業によるメリハリのある土地利用が求められています。

#### 市外、市内の移動に便利で安全な交通体系の構築

千葉柏道路（\*13）など他都市と連携する広域幹線道路（\*14）の強化と、市街地内における交通渋滞や通過交通（\*15）による環境悪化などの解消が望まれているとともに、東京直結鉄道（地下鉄8号線）を始めとした公共交通の充実による交通網の整備が求められています。

また、歩行者や自転車に安全に、楽しく通行できるバリアフリー（\*16）に配慮した自転車・歩行者空間が求められています。

#### 活発な産業の育成や連携による野田市の活性化

既存の産業の集積や千葉柏道路などのインパクト（\*17）を活用するとともに、今後も野田市の経済を支え、かつ周辺環境と調和した商業など活発な産業の育成や、地域内資源の充実によるまちの活性化が望まれています。

#### 自然、歴史、人とふれあうことができる都市空間の形成

江戸川、利根川及び利根運河に囲まれた市街地における豊かな自然や趣のある歴史的資源を活用し、これらの資源を満喫できる環境の創出を進め、市民と来訪者がその環境を共有し、自然、歴史、そして人とふれあうことができる都市空間の創出が求められています。

#### やすらぎのまちと風景づくり

自然環境と調和した、潤いある住環境とみどり豊かな景観形成が求められており、市街地中心部においては、にぎわいのある街並み、歴史的な中心市街地では、趣のある街並みなど地域の特性に調和した景観形成が望まれています。

## 3) 将来都市構造

前項の課題に対応した将来都市構造を構築するには、自然環境の保全や良好な居住空間を創出するためのゾーンの形成、にぎわいや活力を生み出すための拠点の形成、地域間や市内での連携を強化する広域的な交通の軸などが必要となります。これらのゾーン、拠点、軸を適正に配置するとともに、東京直結鉄道（地下鉄8号線）や千葉柏道路のインパクトを念頭に置きながら、これらの将来都市構造を構成する要素とその内容を整理します。

将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
自然環境と調和した土地利用	市街地ゾーン	<p>これまでの発展の経緯や市街化の動向などを踏まえ、野田地域は、主に国道16号以西を市街地ゾーンとして位置付け、豊かな自然環境や歴史的資源と調和した市街地の形成を図ります。また、関宿地域においては、関宿北部地区と関宿中部地区において面的な整備が行われている地域を市街地ゾーンとして位置付けます。</p>
	農業振興ゾーン	<p>野田地域は、主に国道16号以東を都市における農業振興ゾーンとして位置付け、農業環境の保全を図ることはもとより、市民の憩いの場の提供のため、農地・緑地などの多様な自然資源をいかしたみどり豊かな空間形成を図ります。また、関宿地域においては、河川沿いに広がる優良な一団の農地の保全を図ります。</p>
	広域拠点	<p>野田市駅、愛宕駅周辺を、全市及び広域を対象とする商業機能や、東京直結鉄道（地下鉄8号線）のインパクトを利用した交通結節機能（*18）の役割を担う広域的な性格をもった拠点として位置付けます。</p> <p>【野田市駅周辺】 既存の伝統産業を保全・活用し、魅力的な景観形成を図るとともに、商業・業務など各種サービス機能や駅前広場、駐輪場などの都市機能の集積とあわせ、回遊性のある野田市の中心としての都市空間の形成を図ります。</p> <p>【愛宕駅周辺】 周辺の市街地整備と一体的な商業・業務機能の集積と駅前広場や駐輪場などの整備を推進するとともに、だれもが快適に暮らせる市街地の形成を図ります。</p>

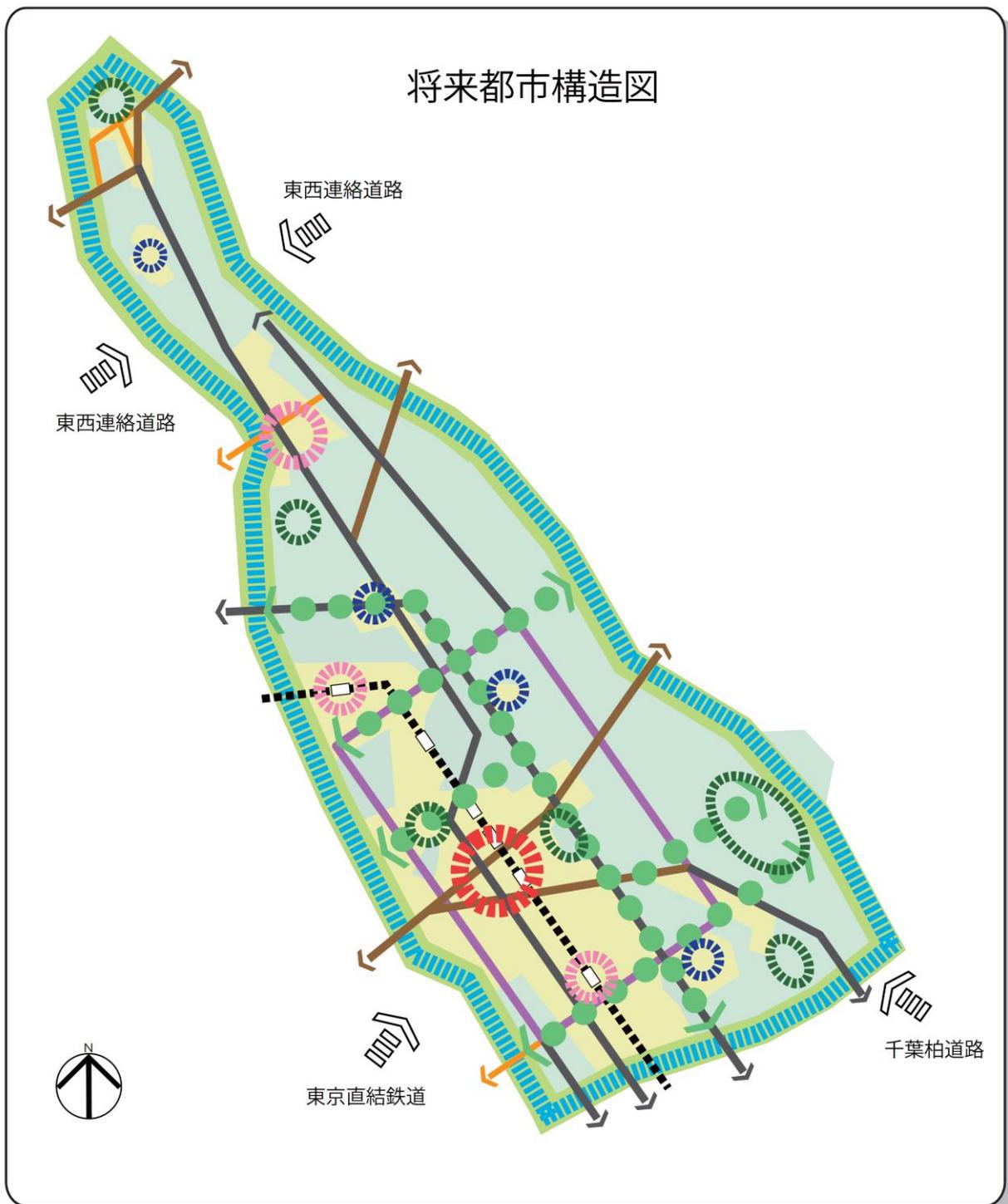
将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
自然環境と調和した土地利用	地域拠点	<p>川間駅、梅郷駅周辺、関宿中央ターミナル・関宿支所周辺を、地域住民の日常生活を支える商業サービスや交通結節機能を備えた地域の拠点として位置付けます。</p> <p>【川間駅周辺】 駅前広場や駐輪場などの都市施設の整備を推進するとともに、都市機能の集積による利便性の高い拠点形成を図ります。</p> <p>【梅郷駅周辺】 南の玄関口として、駐輪場などの周辺の市街地整備とあわせた商業集積を図るとともに、都市機能の集積による利便性の高い拠点形成を図ります。</p> <p>【関宿中央ターミナル・関宿支所周辺】 関宿地域の中心として商業業務地の形成を図るとともに、土地区画整理事業により落ち着いた街並みと調和した住宅市街地としての拠点形成を図ります。</p>
市外、市内の移動に便利で安全な交通体系の構築	南北軸	<p>南北方向の広域的な幹線道路である、国道16号を南北軸として位置付け、交通混雑緩和のため、機能強化（千葉柏道路の早期整備）を促進します。あわせて、主要地方道結城野田線、我孫子関宿線及び市道山崎野田線を南北方向に形成された市街地の各拠点を短時間で結ぶ移動の軸として形成を図ります。</p>
	東西軸	<p>東西方向の広域的な幹線道路である、主要地方道つくば野田線、越谷野田線、野田牛久線、境杉戸線バイパス（都市計画道路台町元町線）及び一般県道岩井関宿野田線を東西軸として位置付け、交通混雑緩和のため、機能強化を確保します。また、首都圏中央連絡自動車道の整備とあわせて、東西方向の拠点や市街地を短時間で結ぶ移動の軸としての道路の整備を促進します。</p>
	環状軸	<p>都市計画道路山崎吉春線、今上木野崎線及び市道船形吉春線、主要地方道松戸野田線（一部の区間）、我孫子関宿線（一部の区間）などを環状軸として位置付け、市街地内への通過交通を排除するとともに、地区間の移動の軸としての形成を図ります。</p>
	公共交通軸	<p>東武野田線を公共交通の軸として位置付け、連続立体交差事業による高架化及びそれを契機とした複線化を促進します。また、市民の通勤、通学等日常生活の利便性の向上に向けて、東京直結鉄道（地下鉄8号線）の整備を促進します。</p>

将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
活発な産業の育成や連携による野田市の活性化	産業拠点	<p>【中里工業団地】 中里工業団地については、周辺の自然環境に配慮した産業拠点とし、川間地区における職住近接のまちづくりのために就業の場を確保します。</p> <p>【南部工業団地、野田工業団地】 南部工業団地、野田工業団地は、東京理科大学に隣接する立地条件をいかし、産学官交流のある産業拠点として形成を図ります。</p> <p>【泉地区】 泉地区は、国道16号沿道の利便性をいかした土地利用を図り、良好な操業環境を創出しつつ、周辺環境との調和に配慮した良好な産業拠点の形成を図ります。</p> <p>【関宿はやま工業団地】 関宿はやま工業団地は、北関東及び東北方面へのアクセス（*19）に優れた立地性をいかし、産業基盤の充実・強化や地域経済の活性化及び雇用の確保等を図ります。</p>
自然、歴史、人とふれあうことができる都市空間の形成	緑地レクリエーションゾーン	利根川、江戸川及び利根運河沿いの広大な自然環境の下、自然に親しみながら多様なスポーツ、レクリエーション活動の場として位置付け、サイクリング道路などの整備充実を促進します。
	緑地レクリエーション拠点	<p>【中央の杜】 中央の杜を野田市のみどりのシンボルとして位置付け、市民と行政の協働による山林の保全に努めるとともに、市民の郷土意識の醸成を推進します。</p> <p>【野田市総合公園周辺】 自然の中での多様なスポーツ、レクリエーションの場として位置付け、施設の整備を推進するとともに、周辺の山林などの自然環境の保全・活用を図ります。</p> <p>【野田市関宿総合公園】 多様なスポーツ、レクリエーションにより市民の交流を深める場として位置付け、スポーツの振興を図ります。</p> <p>【野田市スポーツ公園】 自然とふれあうことができるスポーツ、レクリエーションの場として位置付け、自然の中での多様なスポーツや自然教育に対応した施設の整備を推進します。</p> <p>【関宿にここ水辺公園】 利根川、江戸川の分岐地点に位置する関宿城博物館を中心とした広域的なレクリエーション需要を満たす緑地として保全及び利用を推進します。</p> <p>【こうのとりの里周辺】 コウノトリをシンボルとした生物多様性（*20）の取組等を充実、発展させ、自然環境の保全、再生、利活用を推進します。</p>

将来都市構造構築のための課題	将来都市構造を構成する要素	各ゾーン、拠点、軸の内容
やすらぎのまちと風景づくり	水の軸	利根川、江戸川及び利根運河の広大な水辺空間を「水の軸」として位置付け、水の持つ潤いややすらぎを享受できる環境づくりを進めます。さらに、これらの河川と河川敷が一体となつてつくりだす開放的な景観や分岐点付近の特徴的な水辺景観を堪能することができる河川の保全に努めます。
	みどりの軸	利根川、江戸川及び利根運河沿いの豊かな自然環境を始めとした大規模な緑地を大きな骨格として、中央の杜や国道16号沿道の山林などを相互に結びつける「みどりの軸」として位置付け、みどりの保全や創出に努めます。



■ 中央の杜



凡 例

市街地ゾーン	南北軸	広域拠点
農業振興ゾーン	東西軸	地域拠点
緑地レクリエーションゾーン	環状軸	産業拠点
	幹線道路	緑地レクリエーション拠点
	公共交通軸 (複線化の促進)	水の軸
		みどりの軸

